

会社経営陣がメディアを通じて 賃上げや制度改正について意識付け！？

富田哲郎会長 発言

ベアは経営の状況を見て判断する。ベア以外に元気になる方法を考えている。社員は非常に元気で頑張っている。社員が元気であることが、安全やサービスに繋がると考えている。

【2022.1.1 ニッポン放送

「コロナ禍に克つ2022」での発言から抜粋】

今、鉄道業界は非常に厳しい環境下にあります。今の状況ですといわゆる「ベースアップ」これは非常に難しい。賃上げ全体に対して厳しい環境にあると言わざるを得ない。これからの業績の変動いかんですから去年はベースアップはできませんでした。

それから定期昇給も普通の時の半分にしていますので、そういった定期昇給をまずどうするか。そこからの議論だと思っています。

【2022.1.6 フジテレビ

「めざまし8」での発言から抜粋】

深澤祐二社長 発言

賃上げについて、この2年間は厳しい状況で給与を下げざるを得なかったという現実がある。そういう中で我々自身の経営体質を強化して、賃上げができる状況に持っていければと思っている。

賃上げに対してはオミクロンの状況を見極めたうえで判断していく。

コロナについてなどの手当などは考えていない。出来るだけ柔軟に働けるような仕組みにしていけるので、そういう意味で制度全体の見直しを当然やっていく。「働き方改革」をどんどん進めていく。

【2022.1.5 NNN

「2022年企業トップインタビュー」

での発言から抜粋】

2022年になり、JR東日本会社の富田会長や深澤社長の発言がメディアに取り上げられています。長引くコロナ禍で経営状況が厳しい事は理解しますが、期末手当のカットにとどまらず定期昇給までカットするという経営判断をしたことにより、将来に明るい展望を見いだせない若手社員を中心に離職者が続出しています。職場によっては要員不足に拍車が掛かり休日出勤要請の電話が繰り返され、現場社員は元気どころか疲弊し我慢の限界まできています。

まもなく春闘の時期ですが、コロナ禍でもエッセンシャルワーカーとしての責務を果たすために社員・家族が歯を食いしばり努力してきた姿を会社経営陣はしっかりと受け止め、健全に会社を発展させるためにも正当な評価をするべきです！

「諦め感」払拭！ 働きがいと心の豊かさを実現させるため、輸送サービス労組に結集し、正々堂々と声をあげよう！